

第1回 唐津港の中長期ビジョンに関する検討会

○唐津港をモデル港として、概ね20～30年先を見据え、今後必要と想定される港湾の機能・役割に対応するための方針・施策等を整理することを目的に、「唐津港の中長期ビジョンに関する検討会」(事務局:唐津港湾事務所及び港湾空港部港湾計画課)を設置し、港湾利用者や行政関係者等による検討を開始した。

○第1回検討会を11月30日に開催し、事務局より唐津港の現況・課題等を説明した後、各構成員から港湾利用上の問題点やニーズについて意見を頂いた。令和4年度末までに計3回開催し、中長期ビジョンとしてとりまとめることとしている。

唐津港



構成員一覧

所 属	
企業・団体	ENEOSグローバルガスターミナル(株)
	大坪産業(株)
	唐津港運輸(株)
	唐津港水産振興協会
	唐津商工会議所
	九州郵船(株)
	合同会社唐津バイオマスエナジー
行政	松浦通運(株)
	佐賀県
	唐津市
九州地方整備局 唐津港湾事務所	

(敬称略、順不同)

検討会の様子

日時: 令和4年11月30日(水)10:00～12:00

場所: 唐津市民交流プラザ

1. 開会
2. 議事
 - (1) 検討会の進め方について
 - (2) 唐津港の現況・課題について
 - 1) 唐津港の現況
 - 2) 唐津港の課題
 - (3) 意見交換
3. 閉会



開会挨拶(唐津港湾事務所長)



松浦通運(株) 発言の様子



唐津バイオマスエナジー 発言の様子



唐津商工会議所 発言の様子



九州郵船(株)発言の様子

【検討会で頂いた意見の一例】

- ・九州電力唐津発電所跡地は、臨港型企業の誘致が地域振興及び就労人口確保の観点より重要。
- ・バイオマス燃料関連、鋼材等の取扱増及び大型船の係留対応のため、妙見地区に岸壁の増設・整備が必要。

第1回 唐津港の中長期ビジョンに関する検討会
議事概要

日時：令和4年11月30日(水)10:00~12:00

場所：唐津市民交流プラザ第1・第2会議室

【主な議事内容】

1)地域の発展について

- 唐津の場合、若年層の人口減少は単なる少子高齢化だけでない。就労人口の減少は地元働く場所がないためではないかと心配をしている。新たな企業誘致や唐津の特徴を活かすことが求められる。
- 九州電力唐津発電所跡地は、みなとオアシスの一部としての機能も考えられるが、臨港型企業の誘致が、唐津港の振興を図るうえで、また、地域に働く場所をつくり上げるという意味で重要。
- みなとの賑わいが戻らないと旅客も増えない。近隣では博多港、佐世保港、長崎港のように遊びに行きたくなる唐津港になれば、人が集まる港になってもっと活気が出てくると思われる。
- 唐津港の東側と西側のつながりが希薄。西側と東側をつなぐにぎわいゾーンを設けることは、魚市場、水産関係の従事者にとって絶好の機会だと思う。
- 工事関連などで唐津に来る人が多数いるが、ホテルが少ない。唐津で食事や宿泊してもらい、唐津の振興に貢献できる環境をつくってもらいたい。
- 唐津の港を利用してもらいたい。利用してもらうことで、唐津港は使いやすい港であることが発信でき、また他の方が港を使っていただけという循環を期待。

2)唐津港の港湾施設について

- バイオマス燃料関連の3万トン級バルク船が2024年より定期就航することが決定している。また、最近の傾向として製鉄所の鋼材、造船用部材やグアム島向け砕石等の海外向け需要が増加しており、船型も3万トン級が主流となり妙見地区岸壁の利用率が格段に向上している。3万トン級の船舶は他の岸壁に係留できないため、岸壁の補修時でも船舶が入れるように、妙見地区に岸壁の増設・整備が必要である。
- SDGs の取組みの高まりで、世界的に、電炉メーカー向けの鉄スクラップの需要が増えている。大型船での積み込みを求められており、大型船に係留できるように水深の確保や防舷材の大型化など対応をお願いしたい。

- LPG 船の大型化が進んでいる。大量に積み、寄港回数を減らす傾向にある。パナマ運河の航行等を考慮し、船舶の長さや幅は同じで、高さが高くなっている船舶が多い。満載で入港すると、航路の水深確保が必要。
- 岸壁の利用率を共有し同じ物差しで議論すべき。また、水深の深い岸壁は不足しているが、水深の浅い岸壁は余裕があるなど岸壁毎の利用率等の数字を明確にし、分析をして今後の改善に役立てるべきではないか。
- 唐津港を新規に利用させていただくにあたり、関係各所において港の図面や設計図書などを整備しておいていただきたい。

(以上)